

# 第11回「日本語大賞」

テーマ「おもしろい日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

## 「笑顔をつくるまほうの言葉」

秋田県

由利本荘市立西目小学校

4年 鷹嶋 寿怜

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「け。」

と言われて理解できたあなた、今までどこかで方言を聞いたことがありますよね？

わたしが住む秋田では、「け」で会話ができます。しかも「け」は、話す場面によって言葉の意味が変わります。「け」には、かゆい、食べなさい、こつちにおいでという二つの意味があるのです。方言は、子どもでもすぐに頭で変かんできるほど親しみがありません。

小さいころから親しみがあるので、ようち園くらいの小さい子どもに、むずかしい言葉はつたわらなくても、方言だと理解できます。

方言は、場所によってちがいがい、たくさん言葉があつてとてもおもしろいと思います。

ときどき、テレビで方言を話す人のインタビューに字まくが出ているのを、聞いただけで理解できたときは、外国語のつうやくができたような、自まんしたい気持ちになります。

でも、「方言ははざかしい」という言葉を聞くことがあります。本当にそうでしょうか。

新しく生まれても、だんだん聞かなくなる言葉は多いです。わたしの中では、じゅ業中に「そんな日本語はありません。」と先生から注意されていた「むずい」もその一つです。

方言は、もうすぐ百さいになるわたしのひいおばあちゃんが生まれる前から、ずっと使われ、大人から子どもまで親しまれています。

その何十年、何百年も前からずっとみんなに親しまれている方言を知っているのに使わないなんて、とてももつたいたいと思います。

わたしは、周りで方言を話す人たちをかんさつして気付いたことがあります。それは大人も子どもも、方言を話すときにやさしい顔や笑顔になっていることです。その表じようで、笑顔のれんさが生まれていると感じました。

だから、方言をはずかしいと感じた人は、方言で笑顔になった人を見て、「笑われた」とかんちがいしてしまつたのかもしれない。

方言には、大人も子どももすぐに親しくなれる力があり、相手の心をギュツとつかんで笑顔にさせてしまうまほうの言葉のようです。

わたしの周りでは、たくさんの方言の先生が活やくしていて、毎日じゅ業をしてくれます。まだまだ知らない方言があるので、たくさんおぼえて、わたしも笑顔にさせるまほうを一つでも多く使えるようになりたいです。

方言とたくさん笑顔のれんさが、この先もときれずにずっと続きますように。